

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-224538

(P2013-224538A)

(43) 公開日 平成25年10月31日(2013. 10. 31)

(51) Int.Cl.

E04D 1/30 (2006.01)

F 1

E04D 1/30 G01A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2012-96702 (P2012-96702)
 (22) 出願日 平成24年4月20日 (2012. 4. 20)

(71) 出願人 596109435
 十亀 誠也
 愛媛県西条市下島山甲1465番地3
 (74) 代理人 100073287
 弁理士 西山 聞一
 (72) 発明者 十亀 誠也
 愛媛県新居浜市船木甲2336番地の41

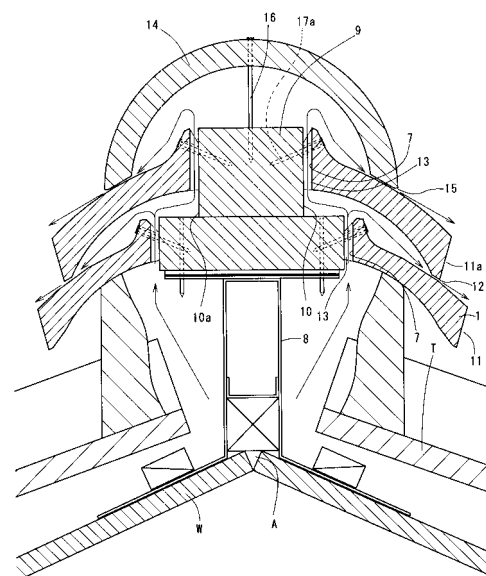
(54) 【発明の名称】 棒熨斗瓦及び該棒熨斗瓦を使用した棟構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 屋根裏の空気が完全に外部排出されるまでに時間を要さない構造を提供する。

【解決手段】 棟部A上に設置した複数本の支持材8上に載架した熨斗瓦固定材9の両側面に、棒熨斗瓦1を熨斗瓦固定材9の長手方向に並列配置し固定した熨斗列11、11aを上下方向に複数段形成すると共に、隣接する熨斗列11、11a間に隙間12を形成し、1段目の熨斗列11と、その直下の葺設状態の棧瓦Tとの間の面戸を閉鎖し、棒熨斗瓦1の熨斗瓦固定材9への当接面に形成された上下方向全体にわたる溝7で熨斗瓦固定材9との間に通気路13を形成する。屋根裏からの空気を、最下段の熨斗列11における通気路13を通過させて、隣接する熨斗列11、11a間に流入させ隙間12から外部流出させる構成とする。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

緩やかに下方傾斜した断面弧状の熨斗部と、該熨斗部の内端上部に上方突設した固定突部とを有し、該固定突部に釘孔を形成し、熨斗部の内端面と固定突部の内側面とを面一にして平面状の当接面を形成し、該当接面に上下方向全体にわたる溝を形成したことを特徴とする棒熨斗瓦。

【請求項 2】

棟部上に設置した複数本の支持材上に熨斗瓦固定材を載架し、該熨斗瓦固定材の両側面に、請求項 1 記載の複数本の棒熨斗瓦を熨斗瓦固定材の長手方向に並列配置し釘着した熨斗列を上下方向に複数段形成すると共に、隣接する熨斗列間に隙間を形成し、1 段目の熨斗列と、その直下の葺設状態の棧瓦との間の面戸を閉鎖し、棒熨斗瓦の溝で熨斗瓦固定材との間に通気路を形成し、最上段の左右の熨斗列を跨ぐ様に冠瓦を、熨斗列との間に隙間を開けて設置したことを特徴とする棟構造。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、外観上、棟部に熨斗瓦が多数段積み重ねられた状態にすることを可能にした、棟部での換気機能を装備可能な棒熨斗瓦及び該棒熨斗瓦を使用した棟構造に関する。

【背景技術】

【0002】

20

従来、神社、仏閣及びこれに類する建築物における大棟、隅棟等の棟部の構造としては、台風や地震の水平力に抵抗させるために棟木から棟束を立設し、下方から台熨斗瓦、熨斗瓦を順次葺土を介在させながら銅線で緊結させて積み重ねた構造と成っている。

【0003】

しかし、上記棟構造にあっては、第 1 に、熨斗瓦間に葺土を介在させていることから、棟部が重くなって建築物への負担が大きく、特に耐震性に劣ることになり、第 2 に、長期間の風雨等によって葺土が崩れ棟部の形態が悪化し易く、第 3 に、棟部の構築に高度な熟練技術が要求される、等の欠点があった。

【0004】

そこで、本願出願人は、屋根の棟部に立設する上下方開口状のボックスと、該ボックスの両側面の縦横方向に多数配列し固定した、熨斗面を備える棒熨斗瓦と、ボックスの上部に葺設固定した熨斗瓦と、該熨斗瓦上に跨がる様に被冠した冠瓦とにより構成し、熨斗瓦及び冠瓦間に隙間を形成することによって、ボックスの下方開口部から上方開口部を経て隙間まで至る排気経路を形成して、屋根裏に溜まった空気を外部へ排出することを可能にした簡易換気棟を開発した（例えば、特許文献 1 参照）。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2001-349025 号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかし、上記従来技術にあっては、確かに軽量化されて耐震性が向上し、経時劣化し難く、施工も簡易化されているが、屋根裏の空気はボックス内を上昇し上方開口部を通過して隙間から外部排出されるため、完全に外部排出されるまでに時間を要してしまうなど、解決せねばならない課題があった。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、上記従来技術に基づく、屋根裏の空気が完全に外部排出されるまでに時間を要してしまう課題に鑑み、緩やかに下方傾斜した断面弧状の熨斗部と、該熨斗部の内端上

50

部に上方突設した固定突部とを有し、熨斗部の内端面と固定突部の内側面とを面一にして平面状の当接面を形成し、該当接面に上下方向全体にわたる溝を形成した棒熨斗瓦を使用した棟構造であって、棟部上に設置した複数本の支持材上に熨斗瓦固定材を載架し、該熨斗瓦固定材の両側面に、複数本の上記棒熨斗瓦を熨斗瓦固定材の長手方向に並列配置し釘着した熨斗列を上下方向に複数段形成すると共に、隣接する熨斗列間に隙間を形成し、1段目の熨斗列と、その直下の葺設状態の棧瓦との間の面戸を閉鎖し、棒熨斗瓦の溝で熨斗瓦固定材との間に通気路を形成し、最上段の左右の熨斗列を跨ぐ様に冠瓦を、熨斗列との間に隙間を開けて設置したことによって、屋根裏からの空気を、熨斗瓦固定材の外側に形成される最下段の熨斗列における通気路を通過させて、隣接する熨斗列間に流入させ隙間から外部流出させる換気棟を構築可能にして、上記課題を解決する。

10

【発明の効果】

【0008】

要するに本発明は、緩やかに下方傾斜した断面弧状の熨斗部と、該熨斗部の内端上部に上方突設した固定突部とを有し、該固定突部に釘孔を形成し、熨斗部の内端面と固定突部の内側面とを面一にして平面状の当接面を形成し、該当接面に上下方向全体にわたる溝を形成したので、かかる棒熨斗瓦の当接面を熨斗瓦固定材の外側面に当接させ固定すれば、棒熨斗瓦の溝により、熨斗瓦固定材の外側に上下方向に貫通状態の通気路を形成することが出来るため、直ぐに熨斗瓦固定材より外側に屋根裏の空気を排出することが出来る。

【0009】

そして、棟部上に設置した複数本の支持材上に熨斗瓦固定材を載架し、該熨斗瓦固定材の両側面に、請求項1記載の複数本の棒熨斗瓦を熨斗瓦固定材の長手方向に並列配置し釘着した熨斗列を上下方向に複数段形成すると共に、隣接する熨斗列間に隙間を形成し、1段目の熨斗列と、その直下の葺設状態の棧瓦との間の面戸を閉鎖し、棒熨斗瓦の溝で熨斗瓦固定材との間に通気路を形成し、最上段の左右の熨斗列を跨ぐ様に冠瓦を、熨斗列との間に隙間を開けて設置したので、屋根裏の空気は熨斗瓦固定材の外側に形成される最下段の熨斗列における通気路を通過させて、隣接する熨斗列間に流入させ隙間から外部流出させることが出来るため、屋根裏の空気が完全に外部排出されるまでの時間の短縮化を図ることが出来る等その実用的効果甚だ大である。

20

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1(a)】本発明に係る棒熨斗瓦の正面斜視図である。

【図1(b)】図1(a)の棒熨斗瓦の背面斜視図である。

【図2】図1の棒熨斗瓦を使用した棟構造を説明する一部断面斜視図である。

【図3】図1の棒熨斗瓦を使用した棟構造を説明する断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明を実施するための形態を図面に基づき説明する。

図1(a)、(b)に示す様に、本発明に係る棒熨斗瓦1、1a…にあっては、断面形状が箱熨斗瓦の側部と略同一になる陶磁器板で、緩やかに下方傾斜した断面弧状の熨斗部2と、該熨斗部2の内端上部に上方突設した固定突部3とを有し、熨斗部2の外端面である熨斗面4を、内方への傾斜面としている。固定突部3に釘孔5、5aを形成し、熨斗部2の内端面と固定突部3の内側面とを面一にして平面状の、後述する熨斗瓦固定材9との当接面6を形成し、該当接面6に上下方向全体にわたる溝7を形成している。

40

【0012】

次に、上記棒熨斗瓦1、1a…を使用した棟構造について説明する。

図2、3に示す様に、屋根下地Wにおける棟部Aに複数個の支持材8を所定間隔毎に立設し、該支持材8上に、棟部Aに沿って長い熨斗瓦固定材9を載架固定し、該熨斗瓦固定材9の各側面10、10aに複数の棒熨斗瓦1、1a…を、側面10、10aの長手方向に並列配置し固定した上下2段の熨斗列11、11aを形成し、隣接する熨斗列11、11aの上方の棒熨斗瓦1、1a…が下方の棒熨斗瓦1、1a…の上面に接地させずに相互間に隙間12を形成し、1

50

段目の熨斗列11と、その直下の棧瓦 T との間の面戸を漆喰、面戸瓦等により閉鎖し、各棒熨斗瓦 1、1a…の溝 7 により熨斗瓦固定材 9 の側面10、10a との間に通気路13を形成している。

最上段である 2 段目の左右の熨斗列11a、11a に跨ぐ様に冠瓦14、14a …を、熨斗列11a、11a の棒熨斗瓦 1、1a…の上面に接地させずに相互間に隙間15を開けて設置し、各冠瓦14、14a …は、貫通させた釘、ビス等の固定具16を熨斗瓦固定材 9 に打ち込んで該熨斗瓦固定材 9 に固定されている。

【0013】

尚、図面上、各棒熨斗瓦 1、1a…は、釘穴 5、5aを貫通させた釘、ビス等の固定具17、17a を両側面10、10a に打ち込んで熨斗瓦固定材 9 に固定されている。

10

【0014】

又、図面上、2 列の熨斗列11、11a を有しているが、3 列以上であっても良く、要するに複数列であれば良い。

又、熨斗瓦固定材 9 の両側面10、10a は階段状に形成され、その立ち上げ面部に棒熨斗瓦 1、1a…が固定されているが、単なる平面であっても良い。

【0015】

次に、本発明に係る棒熨斗瓦を使用した棟構造の作用について説明する。

屋根裏の空気は、先ず棟部 A の隙間を通過して、熨斗瓦固定材 9 の下方の空間に流入し、続いて 1 段目の熨斗列11における各棒熨斗瓦 1、1a…の溝 7 により熨斗瓦固定材 9 の側面10、10a との間に形成された通気路13を通過して、2 段の熨斗列11a との間に流入し、一部は隙間12から外部排出され、残りは更に 2 段目の熨斗列11a における通気路13を通過して、冠瓦14、14a …との間に流入し隙間15から外部排出される。

20

【符号の説明】

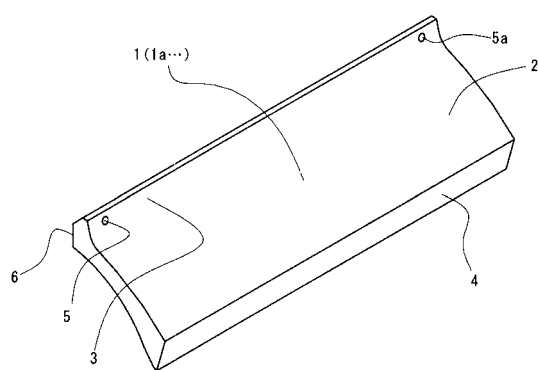
【0016】

1、1a…	棒熨斗瓦
2	熨斗部
3	固定突部
5、5a	釘孔
6	当接面
7	溝
8	支持材
9	熨斗瓦固定材
10、10a	側面
11、11a	熨斗列
12	隙間
13	通気路
14、14a …	冠瓦
15	隙間
A	棟部
T	棧瓦
W	屋根下地

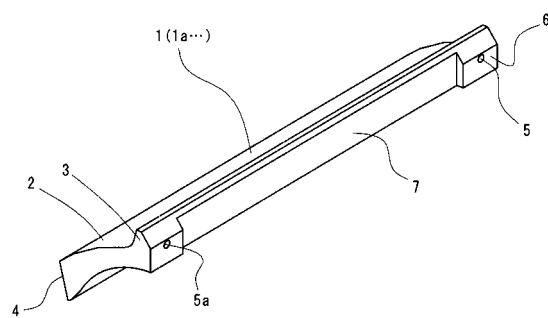
30

40

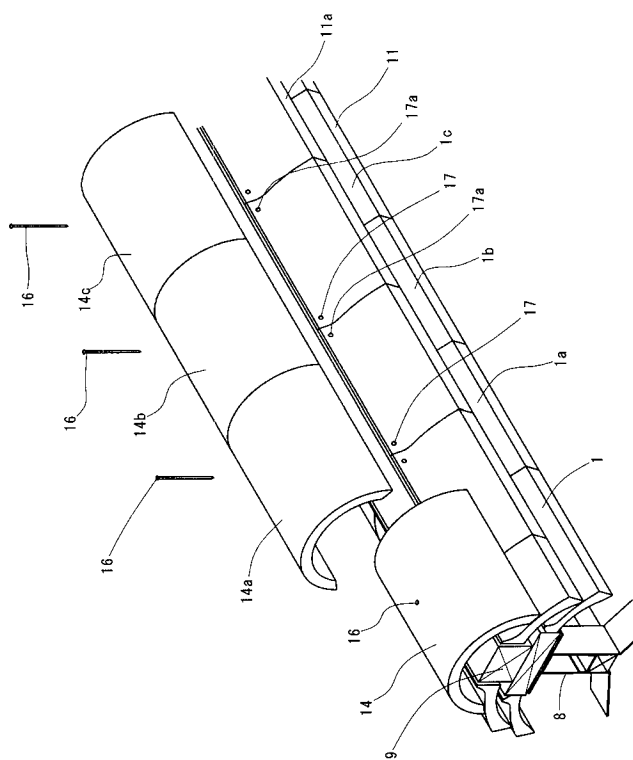
【図 1 (a)】



【 図 1 (b) 】



【 図 2 】



【 図 3 】

